

# 北電 過去最高益

## 9月中旬 料金値上げなど寄与

### 決算

北陸電力(富山市)が31日発表した2023年9月中間連結決算は、電気料金 の値上げや燃料価格の下落 が寄与し、売上高、営業利 益、経常利益、純利益のい ずれも中間期として過去最 高となった。松田光司社長 は会見で「発電設備の更新 は赤字の中ではなかなかで きない。今すぐの値下げよ りも安定供給や財務基盤の 安定化、事業投資に注力し ていきたい」と、当面は電 気料金の値下げは行わない 方針を示した。

売上高は前年同期比8・8%増の4079億円、純 損益が511億円の黒字 (前年は381億円の赤 字)と、2年ぶりに黒字転 換した。未定としていた期 末配当は1株当たり7円50 銭で2年ぶりの復配とし た。

経常利益が電気料金の改 定で500億円、石炭や液

化天然ガス(LNG)の価 格と燃料調整額の差で7 60億円上振れした。一方 で、春先に気温が上がっ たことや新型コロナウイルスが5 類に移行されたことに伴う 外出機会の増加などで販 売電力量が減少し、160 億円の下振れ要因となっ た。

24年3月期の通期予想は 燃料価格がさらに下落する とみて、経常利益を従来よ り150億円多い400億 円、純利益を100億円多

い300億円に上方修正し た。

(高岡涼子)

連結自己資本比率 27年度末20%超に 新財務目標を発表

北陸電力は31日、202 3-27年度の新しい財務目 標を発表した。前年度の燃 料高騰による赤字を受けて 財務基盤の回復が課題とな っており、27年度末には連 結自己資本比率を20%以上 にするとした。

経常利益は年450億円

をを目指す。今年7月に設置 した「業務改革・DX(デ ジタルトランスフォーメー ション)推進プロジェクト 室」による経営効率化や生 産性の向上、人工知能(AI)を活用した発電の効率 化などで達成を目指す。

このほかカーボンニュー トラルをはじめ、新事業へ 5年間で1500億円を めどに投資していくとし た。効率的な投資の実施 とリスク評価を行う「投資 委員会」を社内に設置し、 新事業領域の拡大を推進す る。

松田光司社長は「思い切 った投資をしていかないと 再生エネルギーや成長事業 に乗り遅れてしまつ」と多 額の投資の意義を示した。

(高岡涼子)